

2010年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	現在、全ての学生が個別面談できるまでには至っていない。					
改善方策	5-3-1 全学生が個別面談を受け易い環境を整備する。就職ガイダンスの開催。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
東松山の2学部は全学生の個別面談を実施しているが、板橋の6学部の3～4年生の面談はまだ出来ていないので、本年度中にどのようなシステムを構築すればよいか検討する。		平成22年度中	A完全に達成		B達成半ば	○ C未達成
			(BまたはCの理由) 学生と個別面談を行うための課員の人数ならびに時間と場所の設定に多くの問題点があったため。			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
全学部3～4年生の個別面談ができるような時間と空間を設置する。現状のスタッフでは全学生の個別面談実施は不可能な状況であるが、できる限り多くの学生との個人面談ができる体制を構築する。		平成23年度中	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由) 板橋においては、職員の1名増員(復帰)もあり充実してきたが、まだ十分とはいえない。			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
積極的に業務委託で相談員を増やして個別対応をはかる。また、間仕切り等の工夫で学生にとって相談しやすい環境を整備する。		平成24年度中	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由) カウンセラーは2名の補充ができたが、まだ不十分である。キャリアセンターの間仕切り等についても少しだけしか手がつけられず、2013年度に積み残した。			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
カウンセラーは当座2名の増員をはかり学生の個別相談に対応した。さらにキャリアセンター(板橋)のレイアウトも変更して学生が利用し易い環境を整えたい。		平成25年度中	A完全に達成		B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A完全に達成		B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A完全に達成		B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	現在、全ての学生が個別面談できるまでには至っていない。
改善方策	5-3-1 全学生が個別面談を受けるシステムを構築。就職ガイダンスの開催。

(2011年3月31日現在)

【現状の説明】

現在、板橋キャリアセンター事務室には専任9名（内2名は病欠等で欠員）、専門嘱託2名、外部委託のキャリアアドバイザー3名で学生対応しているが、個別面談を充実させるためには十分な人員とはいえない。また、個別面談スペースの確保等ハード面でも改善する必要がある。

東松山キャリア支援課については、すべてに1～2年生並びに国際関係学部とスポーツ・健康科学部の2学部の全学年対応のため、現状の専任職員と外部委託のキャリアアドバイザーではほぼ対応できている。ただし、オープンカウンターのため相談しづらいとの学生の声もある。

所見	上記の現状の説明ではキャリアアドバイザーは増員されたが、キャリアセンターの事務員は減員されたという表現が何を意味しているのか理解しづらいので記載方法を変更して頂きたい。例えば、「現在、キャリアセンターの事務員は〇〇人いるが、その中の〇〇人がキャリアアドバイザーを担当している。これでは学生へのキャリア対応は困難であるためセンター事務員の増員とキャリアアドバイザーの増員をキャリアセンター運営委員会で検討する。」ではどうか。2011年度内に増員や予算措置の問題が解決されるとは思えないので、その後の対応に関しては2012年度まで延長した方がよいのではないかと。
----	---

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

板橋キャリアセンター事務室においては専任職員が12月に1名復職したことで人的には学生の個別対応が充実してきた。ただし、板橋キャンパス所属学生約2500名がすべて面談できている訳ではなく、これをすべて対応することになれば、専任職員の増員は難しいと思われるので、積極的に業務委託等で相談員（キャリアカウンセラー）の増員をはかりたい。そのために目下必要な職員数等ならびにキャリアセンターを利用する学生数は述べ10,121名である。なお、周囲の者に相談内容を聴かれないからキャリアセンターを敬遠するとの声も聞く。このことに伴いハード面では室内改装は物理的には難しいので、間仕切りなどの工夫で対応したい。

東松山キャリア支援課においては、従前から学科ごとに担当者を決めて個別面談を実施している。今後もこの対応を継続するとともに、板橋キャリアセンターでもできる限り数多い学生の個別対応をすべくその方策を検討する。

所見	提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。板橋校舎における、個別面談制度の充実を切に望みます。
----	--

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

東京労働局・ハローワーク新宿より、週に1日（12:30～16:30）企業紹介のみならず面接トレーニングや履歴書の添削などもお願いできるようになった。リピーターも増えている。平成12年度のキャリアセンターを利用した学生数は述べ10,121名である。しかし、全学生へ対応するまでには至っていないので、引き続き2013年度もキャリアカウンセラーの増員をはかることにより学生の相談に対応する。

キャリアカウンセラーは現在板橋キャンパスに5名、東松山キャンパスに4名が在籍している。

所見	現状の説明は、学生の面接環境の面接しやすい環境に関する取り組みとは直接関係がありません。また、キ
----	--

キャリアカウンセラーの人数配分は就職活動を実施する校舎ごとの在籍数に明らかになっていません。全員が面接を受けられるシステムは何かを明らかにし、それに対する方策と実践を求めます。

2010年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	開講する講座がニーズや時宜に応じた内容になっていない。					
改善方策	5-3-3 講座のあり方を十分に検討し「インターンシップ講座」を開講する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
			→			
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
「インターンシップ講座」の開講を地域連携センターとはかり、学部長会議に要請する。		平成23年度中	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 学部長会議に諮る時期を逸してしまった。 来年度のカリキュラム、あるいは24年度のカリキュラムと連携させるため、少し時間がかかる。			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
各学部教授会の「インターンシップ」の単位認定を依頼する。		平成23年度中	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) インターンシップの形態が変わりつつある。状況把握にとどめた。			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
キャリアセンター運営委員会でどのようにインターンシップを推進するか議論して、必要があれば学部長会議に正規授業導入を提案する。		平成24年度	A 完全に達成		B 達成半ば	○ C 未達成
			(B または C の理由) インターンシップ科目の必要性について検討中である。			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
2013年度第一回キャリアセンター運営委員会にインターンシップ講座の開講について諮り、その結果を学部長会議を通して各学部に要望する。		平成25年度中	A 完全に達成		B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A 完全に達成		B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A 完全に達成		B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	開講する講座がニーズや時宜に応じた内容になっていない。
改善方策	5-3-3 講座のあり方を十分に検討し「インターンシップ講座」を開講する。

(2011年3月31日現在)

【現状の説明】

経営学科、環境創造学科及び政治学科の3つの学科ではインターンシップ講座を開講しているが、今年度も継続して他の学科にも開設の依頼を続ける。

所見	2011年のこれまでのインターンシップ講座に対する学生の受講状況や内容などを説明したうえで、各学部に関連の依頼をしたらいかがか。今後の改善方策における進捗状況を見守りたい。
----	--

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

インターンシップについては、その実施期間が10日～2週間に固まりつつある。この状況で単位付与を推進するかキャリアセンター運営委員会で議論する予定であったが、煮詰まった議論には至らなかった。従って2012年度に持ち越し改めて議論していきたい。これを単位付与として学部学科の正規科目と導入する意義が確定したら、学部長会議を通じて各学部教授会に審議を付託する。正規科目導入にあたっては学則改正を伴うので実施までには時間を要することは必至である。なお、キャリアセンターでは引き続きインターンシップを推進し、学生たちに就業体験を積ませたい。

所見	提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。2011年度実施計画は単位認定を依頼することであるので、この点に関しては未達成が適切であると考えられます。インターンシップについては既に実施されている学部・学科もあり、今回検討されているインターンシップに関する検討事項が既に実施されているものと齟齬がないように対応されることを強く望みます。
----	---

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

全学対応のキャリア科目では、ハタモク(NPO)を使つてのワークショップを展開した。学生アンケートでも好評であった。2013年度も引き続き実施していきたい。

インターンシップ受入企業数は43社、そのうち40名が参加した。なお、キャリアセンターでもインターンシップの充実に向け企業を開拓し、青木信用金庫、(株)エービーシー商会、巣鴨信用金庫、SMBC日興証券、(株)大塚商会を開拓した。

所見	現状の説明は、「インターンシップ講座を開講する」という改善方策に関する説明とは言えません。全学共通科目は大学の授業であり、キャリアセンターが掲げる改善方策によって行われているものとは考えられません。また、インターンシップ開拓を行うことは、部署の中で学生のニーズに合致していることで評価するべ
----	---

き点だとは思いますが、直接的に改善方策には関係がありません。おおくのキャリアセンターの活動の中で、改善方策に直接的に必要なことは何かを明らかにし、確実に実施することを期待します。

2010年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	個人面談室を学内（両キャンパス）に設置することが困難なためキャリア指導が不十分である。					
改善方策	5-4-3 複数の学生の個人面談の時間を十分に確保するためのスペースを拡充する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
	—————▶					
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
大学執行部と折衝し個別面談のスペースを拡充する。		平成23年度中	<input type="checkbox"/> A完全に達成	<input type="checkbox"/> B達成半ば	<input type="checkbox"/> C未達成	(BまたはCの理由) 「5-3-1」とも関連するが、キャンパス内の場所を確保し、なお、時間の調整をはからなければならないため、少し時間がかかると予測される。
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
全学の同意を得て、個別面談の空間を確保できるよう努める。		平成23年度中	<input type="checkbox"/> A完全に達成	<input type="checkbox"/> B達成半ば	<input type="checkbox"/> C未達成	(BまたはCの理由) 個別面談のスペースの拡充はできなかった。
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
室内レイアウトを工夫し、複数の個別面談ブースの設置を要望する。		平成24年度	<input type="checkbox"/> A完全に達成	<input type="checkbox"/> B達成半ば	<input type="checkbox"/> C未達成	(BまたはCの理由) 予算の確保や絶対的なスペースが足りないの中で中々手がつけられなかった。次年度には工夫して何とか実現をはかりたい。管理課を通してレイアウト変更に要する金額の見積りを取った。
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
当面、企業紹介のパンフレット等を整理してスペースの確保をはかる。具体的には書架2本（7列×4面）の撤去を行い、学生の相談スペースを確保する。さらに事務机やカウンセラー席等の配置を見直す。		平成25年度中	<input type="checkbox"/> A完全に達成	<input type="checkbox"/> B達成半ば	<input type="checkbox"/> C未達成	(BまたはCの理由)
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			<input type="checkbox"/> A完全に達成	<input type="checkbox"/> B達成半ば	<input type="checkbox"/> C未達成	(BまたはCの理由)
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			<input type="checkbox"/> A完全に達成	<input type="checkbox"/> B達成半ば	<input type="checkbox"/> C未達成	(BまたはCの理由)

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	個人面談室を学内（両キャンパス）に設置することが困難なためキャリア指導が不十分である。
改善方策	5-4-3 複数の学生の個人面談の時間を十分に確保するためのスペースを拡充する。

(2011年3月31日現在)

【現状の説明】

個別面談ブースの設置のための予算は認められなかったが、2012年度も引き続き要望していきたい。しかし、現状の限られたスペースのなかでも工夫して効果的な面談ができるようつとめたい。

所見	2011年度内に予算措置やスペースの問題が解決されるとは思えないので、大学執行部との折衝やその後の対応に関しては2012年度まで延長した方がよいのではないかと。
----	--

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

板橋キャンパスにおいては、キャリアセンター事務室の拡張は難しい状況である。しかし、できる範囲の対応策として、間仕切り等で面談スペースを設置するなど室内レイアウトを工夫し、学生の個別面談環境の向上を望みたい。

所見	提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。キャリアセンター事務室の環境改善に引き続き取り組んでいただきたい。
----	---

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

板橋キャンパスにおいては、キャリアセンター事務室の拡張は依然として難しい状況である。キャリアカウンセラーの増員を図り、業務をより一層充実させるため、そのスペースの確保に向け執行部や関係部署に強く要望する。

所見	2013年度は計画最終年度です。しかるべき環境改善が行われ、確実に実施されることを望みます。
----	--

改善方策実施計画書 担当部局：キャリアセンター 責任者：キャリアセンター所長 幹事：キャリアセンター事務室
平成22年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	個別部署での学生対応にとどまり、総合的に学生支援を行うことができないため、キャリア指導が不十分である。					
改善方策	5-4-4 進路支援強化のため、学生生活を含め総合的に支援を行う体制を作る。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
				→		
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
教務事務室、学部事務室、学生部等とも連携し、学生への進路支援の強化をはかる。その方法と手段については検討を要する。		平成23年度中	<input type="checkbox"/> A 完全に達成	<input type="checkbox"/> B 達成半ば	<input type="radio"/> C 未達成	(B または C の理由) 学生支援センター（仮称）構想があったので、本年度は他部署との検討は見送った。
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
学生への総合的支援のあり方を確定させ、進路支援のあり方を明確にさせる。そのためにも学生支援センター設置が待たれる。		平成23年度中	<input type="checkbox"/> A 完全に達成	<input type="checkbox"/> B 達成半ば	<input type="radio"/> C 未達成	(B または C の理由) 学生支援センター構想にキャリアセンターがかかわらなかった。
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
教務事務室、学部事務室および学生部等との日常的な連携をはかり、学生の個人情報を把握し、キャリア指導に役立てる。現在、学生支援センター（仮称）の設置構想が進んでおり、その構想にキャリアセンターがどのように関わっていけるかを検討する。		平成24年度中	<input type="checkbox"/> A 完全に達成	<input type="checkbox"/> B 達成半ば	<input type="radio"/> C 未達成	(B または C の理由) 学生支援センター構想にキャリアセンターがかかわらなかった。
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
学生支援センターと個人情報の共有化に向け、整備をはかる。		平成25年度中	<input type="checkbox"/> A 完全に達成	<input type="checkbox"/> B 達成半ば	<input type="radio"/> C 未達成	(B または C の理由)
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			<input type="checkbox"/> A 完全に達成	<input type="checkbox"/> B 達成半ば	<input type="radio"/> C 未達成	(B または C の理由)
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			<input type="checkbox"/> A 完全に達成	<input type="checkbox"/> B 達成半ば	<input type="radio"/> C 未達成	(B または C の理由)

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	個別部署での学生対応にとどまり、総合的に学生支援を行うことができないため、キャリア指導が不十分である。
改善方策	5-4-4 進路支援強化のため、学生生活を含め総合的に支援を行う体制を作る。

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

学生部、教務事務室、学部事務室、教職課程等事務室および国際交流センターなどで各々の指導・支援は行っているが、学生個人に対して総合的指導を行うことにより、進路支援の強化に繋がることを検討しているところである。

構想中の学生支援センター（仮称）の設置を期待したい。

所見	現状の説明欄には、「目下、事務組織の改革を検討中のため、この結果を受けて対応したい。」ではなく、「個別部署での学生対応だけでなく、総合的に学生支援を行うことができていないためキャリア指導が不十分である。そのため、教務部や学生部とも連携し、学生への進路支援の強化をはかる方策を検討しているところである。」というふうに記載すべきではないか。
----	--

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

当初望んでいた学生支援センター構想（仮称）の実現には難しい状況である。教務事務室、学部事務室および学生部等との日常的な連携をはかり、学生の個人情報を把握し、キャリア指導に役立てたい。なお、心因的な理由での悩みを抱える学生の相談もあるので、学生相談室（学生部）との連携の仕組みも構築したい。

学生カルテ（仮称）のようなものを大学全体で共有できればよいが、現状では作成されていない。総合的に学生を支援するならばこのようなものが必要である。

所見	提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。キャリアセンター内で実現可能な学生支援は何であるかを検討し、願望ではなく、達成目標をより具体的に示してください。
----	--

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

キャリアセンターに相談に来る学生の中に何名かがメンタル面で問題があるのではないかとと思われる学生がいます。その学生に対して的確な相談や対応をするためには、学生支援センターの学生相談室に相談に行っている学生のリストやその状況を知る必要があります。学生の個人情報の共有化に向け学内での調整を踏むため、キャリアセンター運営委員会で承認のうえ、学生支援センターに要望する。

所見	メンタル面で問題がある学生については、就職活動のケアよりも日常生活等のケアが必要な場合があり、専門カウンセラーの協力が必須になります。個人情報の共有については、構築までには時間がかかると推察します。2013年度を完成年度にしている事は何かを明確に示し、完成に向けて努力頂きたい。
----	---

改善方策実施計画書 担当部局：キャリアセンター 責任者：キャリアセンター所長 幹事：キャリアセンター事務室
平成22年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	就職内定者に活動報告アンケートを行い、就職活動結果報告書として取りまとめる。					
改善方策	5-6-1 就職内定者へのアンケート実施。(2012年度よりアンケートを「就職活動結果報告書」に読み変えたい。)					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
就職活動結果報告書を作成して、3～4年生の就職活動の参考資料とした。		平成22年度中	<input type="radio"/> A完全に達成	<input type="checkbox"/> B達成半ば	<input type="checkbox"/> C未達成	
			(BまたはCの理由)			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
アンケートそのものは実施できなかったが、毎年就職内定者には「就職活動結果報告書」を提出してもらっている。これを製本して在学生が閲覧できるようにしている。			<input type="checkbox"/> A完全に達成	<input type="radio"/> B達成半ば	<input type="checkbox"/> C未達成	
			(BまたはCの理由) 就職内定者の提出率が低いので、引き続き実施し充実させたい。			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
就職内定者に提出してもらっている「就職活動結果報告書」を引き続き製本して、後輩たちの就職活動に役立てる。			<input type="radio"/> A完全に達成	<input type="checkbox"/> B達成半ば	<input type="checkbox"/> C未達成	
			(BまたはCの理由)			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
			<input type="checkbox"/> A完全に達成	<input type="checkbox"/> B達成半ば	<input type="checkbox"/> C未達成	
			(BまたはCの理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			<input type="checkbox"/> A完全に達成	<input type="checkbox"/> B達成半ば	<input type="checkbox"/> C未達成	
			(BまたはCの理由)			
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			<input type="checkbox"/> A完全に達成	<input type="checkbox"/> B達成半ば	<input type="checkbox"/> C未達成	
			(BまたはCの理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	就職内定者に活動報告アンケートを行い、就職活動結果報告書として取りまとめる。
改善方策	5-6-1 就職内定者へのアンケート実施。(2012年度よりアンケートを「就職活動結果報告書」に読み変えたい。)

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

就職活動の結果報告書を作成し、3～4年生が就職活動の参考資料とした。これは内定者の体験を把握することができるため効果的な資料となっている。

所見	現状の説明欄には、達成半ばであることから「就職活動結果報告書」を作成するための就職内定者のアンケート調査が任意であるため回収率が低く、キャリア推進のための報告書としては不十分である。現在、質問事項の変更を含め回収率の増加に繋がる方策について検討している。」としたらいいのではないか。
----	---

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

「就職活動結果報告書」の提出率が低いので、引き続き実施し充実させることにより、後輩たちに役に立つ資料として生かせる。ただし、個人情報との関わりもあるので、任意での提出としている。また、後輩たちへの利用についても承諾を得たものみの限定している。

所見	提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。就職活動結果報告書の提出もしくは進路報告書の提出の未提出者には学位記を渡さないという方針のもと学位授与を行った学部も存在します。キャリアセンターが主体となり、「就職活動報告書提出の徹底」という目標を達成させるための具体的な方策の提案が望まれます。
----	---

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

3月22日の卒業式・学位授与式の証書渡しを板橋キャンパスで行った際、配布場所の19会場全てにキャリアセンター職員と応援職員を配置し、進路報告書を提出させた。回収数は2224名で前年度より40名多く回収できた。また、就職活動結果報告書を300部作製した。板橋・東松山合せて学科事務室、図書館、学部事務室、入試広報課、教員控室及びキャリアセンター運営委員に配布し、就職活動をした学生の生の声を知っていただくのに役立てた。

所見	進路指導書の回収は、進路活動報告書の発行には関係がある項目ではありません。また、回収率は昨年より増えたとはいえ、該当学生全員にはいたってはならず、回収方向に改善が必要です。就職活動報告書に関しては、この改善方策が実施されるより以前から行われているキャリアセンターの事業であり、改善方策の取り組み期間が2012年で終了することを鑑みると、改善方策は未達成であると言わざるをえません。
----	--

改善方策実施計画書 担当部局：キャリアセンター 責任者：キャリアセンター所長 幹事：キャリアセンター事務室
平成22年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	企業が期待する人材についての把握が十分ではない。また、卒業生の就職後の状況把握が十分とはいえない。					
改善方策	5-6-2 企業へのインタビュー及び卒業生へのヒアリング（情報収集）。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
企業へのインタビューならびに卒業生へのアンケートはぜひ採りたい。今年度はその内容について検討し、次年度から実施したい。		平成23年度中	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由) 企業へのインタビューならびに卒業生へのアンケートの内容と実施に向けて、その方向性の検討を行った。			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
卒業生のいる企業訪問を実施し、ヒアリングを行う。		平成23年度中	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由) 特に関わりの深い企業への訪問は実施したが、十分とはいえない。			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
管理職が中心となって、本学卒業生の多い企業を中心に訪問をする。できれば卒業生にも接触して当該企業の実情把握をする。		平成24年度中	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由) 理事長による企業訪問は実施できた。都内の2企業を訪問した。キャリアセンター職員による企業訪問は管理職、課員とも残業も多く業務多忙により述べ100社程度にとどまった。			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
僅かではあっても課員が手分けして企業訪問を実施する。さらに「企業と大学の情報交換会等」に積極的に参加する。また地方で開催される情報交換会等も含め継続して積極的に参加する。2013年度は理事長並びに学長などのトップセールスによる企業訪問を実施したい。		平成25年度中	A完全に達成		B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A完全に達成		B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A完全に達成		B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	企業が期待する人材についての把握が十分ではない。また、卒業生の就職後の状況把握が十分とはいえない。
改善方策	5-6-2 企業へのインタビュー及び卒業生へのヒアリング（情報収集）。

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

企業へのインタビュー、卒業生へのヒアリングの質問事項を含めて目下検討中。

所見	回収率がどの程度見込まれるかが問題である。
----	-----------------------

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

本学卒業生の在籍する企業を中心に積極的な訪問を行う予定であったが、現状の業務担当ならびに業務量では研究会、名刺交流会および大学と企業との懇談会といった多くの企業が集まる場所には参加しているが、個別の訪問は殆どできなかった。

所見	提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。計画通りに大学執行部による企業訪問が達成されることを切に望みます。また、卒業生の実態調査の実現も切に望みます。
----	---

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

手分けして約100社程度の企業訪問を実施している。さらに数十社が集まる「企業と大学の情報交換会等」に積極的に参加している。さらに地方で開催される情報交換会等も含め継続して参加するとともに情報収集をはかる。

所見	100社+αの企業訪問結果から得られた情報は何かを明確にし、学生の指導に役立ててください。また、学生の実態調査についての実現も2012年度の所見同様、節に臨みます。
----	--

改善方策実施計画書 担当部局：キャリアセンター 責任者：キャリアセンター所長 幹事：キャリアセンター事務室
平成22年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	アンケートの分析とその集積を重要資料として経年蓄積していく。これにより統計的に内定学生の情報をキャリア指導に還元することができる。					
改善方策	5-6-3 アンケート調査結果から内定学生の詳細なデータ分析を実施する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
				→		
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
現在も実施しているが、より多くの学生、しかも1～2年生（講座等）にも対象を広げる。		平成22年度中	○ A完全に達成		B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
アンケートとイコールではないが、「キャリアセンター行事出席カード（B6サイズ）」を殆どのキャリア行事では提出させ、その中に感想を書かせている。		平成23年度中	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
「キャリアセンター行事出席カード」をキャリア支援行事で書かせ、次年度以降のキャリア支援の方針を決定に役立てたい。また、後期からキャリアセンター主催で金融ゼミを実施し金融志望の学生を支援する。		平成24年度中	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由) 殆どのキャリアセンター行事で出席カードを書かせた。出席を取るだけでなく感想や自由記述欄もあり行事ごとに担当者が分析し、次年度の行事計画等に役立てている。 金融ゼミに参加した学生の内定報告等の際、ヒアリングを行い主にエントリーシートや面接時における質問等を集計し13年度の学生相談に活用する。			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
金融ゼミは学生からも好評であったので引き続き実施する。		平成25年度中	A完全に達成		B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A完全に達成		B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A完全に達成		B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	アンケートの分析とその集積を重要資料として経年蓄積していく。これにより統計的に内定学生の情報をキャリア指導に還元することができる。
改善方策	5-6-3 アンケート調査結果から内定学生の詳細なデータ分析を実施する。

(23年3月31日現在)

【現状の説明】

4年生アンケート（就職活動結果報告書）を取りまとめて、キャリア指導の一環として利用している。1～2年生については、就職関連講座等においてアンケートをとり、今後のキャリア指導の計画に生かしている。本報告書は経年蓄積して行くこととする。

所見	5-6-1は就職内定者へのアンケート実施、5-6-2は企業と卒業生へのアンケート実施、5-6-3は就職内定者へのアンケート調査とデータ解析となっている。上記の現状の説明欄は、5-6-2ではなく5-6-1のアンケート調査のデータ解析の間違いではないか。
----	---

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

アンケートとイコールではないが、「キャリアセンター行事出席カード（B6サイズ）」を殆どのキャリア行事では提出させ、その中に感想を書かせていたが、それを十分に活用してキャリア支援に結びつけてはいなかった。2012年度も引き続き実施するとともに、学生の声を集約しキャリア支援にさらに役立てたい。

所見	提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。アンケート実施が実施目標である為、目標達成度は未達成がふさわしいと思います。2012年度にアンケートを実施し、その結果を今後を生かすという目標をどのように実施していくかの明確な目標達成計画を望みます。
----	--

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

殆どのキャリアセンター行事で出席カードを書かせた。これにより受講の感想が掴めること。さらに自由記述欄ではそれ以外の考えも知ることができる。結果として、特に出席率やクレームについては課内で話し合い、次年度の開催日程や開催時間、内容の充実に役立っている。
進路報告の際に「活動結果報告書」を提出してもらっている。内容は内定に至るまでの経緯、筆記試験や面接試験等についてかなり詳細な内容となっていて、在学生のこれからの就職活動に大いに役立つものである。

所見	キャリアセンターが方策改善に必要だと想定した「アンケート」とは一体何なのでしょう。また、それは、出席カードと共に書いてもらうものだけで、詳細なデータ分析ができるものなのでしょうか。更に、学生から好評だった金融ゼミの取り組みは、取り組み自体は評価できると考えますが、アンケートの結果から
----	--

内定結果を分析するという改善方策とは直接関係のある取り組みとは言えません。2012年度の所見と同様に、アンケートを実施し、その結果を今後に生かすという目標をどのように実施していくかの明確な目標達成計画を望みます。

改善方策実施計画書 担当部局：キャリアセンター 責任者：キャリアセンター所長 幹事：キャリアセンター事務室

平成22年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	キャリアセンター主催のダブルスクールと地域連携センター主催のオープンカレッジの連携が十分でないため、必ずしもキャリア支援に効果的ではない。					
改善方策	5-26 多様な時代状況に即応した講座を開講し、オープンカレッジとダブルスクールの活用を指導する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
				→		
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
地域連携センターと緊密な連携をとり、もっとも有効な時宜に適した講座を開講する		平成23年度中	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由) キャリアセンターと地域連携センターにおける協議が十分ではなかった。			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
地域連携センター主催のオープンカレッジでキャリア支援に関連する講座が開講できるよう協議する。		平成23年度中	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由) 地域連携センターとの協議未了			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
ダブルスクールの開講のあり方について抜本的な検討を行う。		平成24年度中	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由) ダブルスクール各講座開講の可否、内容を検討中である。			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
ダブルスクールの魅力ある開講科目を実施する。その意義、効果など常に意識し学生の満足度も意識しつつ必要性が高いものと費用対効果を考慮し実施する。		平成25年度中	A完全に達成		B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A完全に達成		B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A完全に達成		B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	キャリアセンター主催のダブルスクールと地域連携センター主催のオープンカレッジの連携が十分でないためキャリア支援に効果的ではない。
改善方策	5-26 多様な時代状況に即応した講座を開講し、オープンカレッジとダブルスクールの活用を指導する。

(23年3月31日現在)

【現状の説明】

ダブルスクールについては、地域連携センター主管業務から4年前にキャリアセンターに移管された。移管に際して、地域連携センターとの協議が十分ではなかった。オープンカレッジは地域開放の一環であると同時に時代に即応した講座の開講が望まれる。これはキャリア支援においても同様といえる。今後は、オープンカレッジ、ダブルスクールのあり方について再検討すべき時期にきていると思われる。

今年度実施した講座の見直しを行った。その結果、受講希望者の少なかったTOEFLを廃止しTOEICを開講、その他日商簿記2級を新たに開講した。

また、人気のある秘書検定2級は現在1コマであったが、これを2コマに増やした。販売士2級と介護事務の講座については受講希望者が少なかったため、次年度は見合わせることにした。

所見	次年度以降の計画を立て、実現可能な改善の向けて着実に取り組んでください。
----	--------------------------------------

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

ダブルスクールは、オープンカレッジの一環として地域への開放が本来の趣旨であると考えます。現状では「23年3月31日現在の【現状の説明】」にも記述しているとおりである。キャリア支援を主たる業務とするキャリアセンターにおいてダブルスクール担当はそぐわないとの課内の意見もある。学生たちも学習意欲の高い地域住民に交じって学ぶことにその効果を見出したい。

2012年度は地域住民が多く受講する科目、学生たちが多く受講する科目、両者が受講する科目のすみわけを行い、オーバーラップするものについて地域連携センターと協議したい。

所見	提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。地域連携センターとの協議が行われていない為、達成目標は未達成が適当であると考えます。学生にとってはどの部署でどのように科目が開講されようともあまり関係のないと考えられます。 組織の根本的な改革を検討するより魅力ある開講科目について地域連携センターと協議し検討することが、改善方策達成に必要なことではないでしょうか。
----	--

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

ダブルスクールは、キャリアセンターの主幹業務となり5年が経過した。この間、学生の後学力向上と資格取得に特化したキャリア支援を目的とした内容で実施し、オープンカレッジとは趣旨が異なってきている。2012年度は1年間で延786名の学生が受講しキャリアセンターとしては今後も学生のニーズに合った講座を実施する。

所見	オープンカレッジとのすみ分けが実現し、明確にした点は評価できます。この認識を地域連携センターにおいても、同様の認識が持てるように連携してください。キャリアセンターの役割は就職活動支援がメインである為、学生の就職活動に有効と考えられる講座の開講を強く望みます。
----	---

